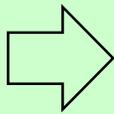


集落の9割以上の農地を集積・集約化、地下かんがい安定生産 ～（農）みらいす青生～

経営体の概要

事業実施前：平成18年度
基幹作物：水稲
経営面積：個々の農家で栽培



現在：令和元年度
基幹作物：水稲60ha, 大豆39.1ha, 小麦8.5ha, たまねぎ2.4ha, とうもろこし1.8ha
経営面積：借地107ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

国営事業実施前は、個々の農家で水稲主体の農業を行っていたが、国営事業及び関連事業のほ場整備事業が概ね完了したことを契機に、平成19年に松ヶ崎集落営農組合を設立し、集落の水稲、大豆の作業受託を行った。その後も集落で話し合いを重ね、平成26年に農業法人みらいす青生を設立し、農業経営の強化を図っている。

国営事業により農業用水が安定供給され、関連ほ場整備事業により10a区画から1ha区画に大区画化・汎用化したほ場を集積・集約化することにより、農作業の省力化が図られ、大豆、小麦のブロックローテーションも可能となっている。

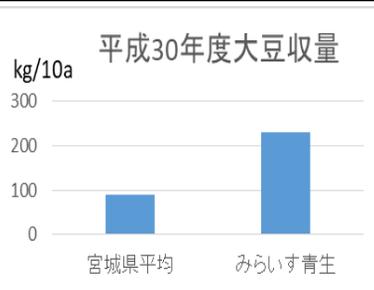
なお、FOEASによる地下かんがいにより適切な水分調整を行うことで大豆やとうもろこし等の収量・品質が向上している。また、生産したとうもろこし等は地域の女性自らが直売を行っている。

営農改善のポイント

① 収量・品質の向上

関連事業のほ場整備事業により暗渠が整備され、水田の汎用化と、ほ場の集積・集約化が図られたことで、水稲、大豆、小麦のブロックローテーションと、FOEASを活用した地下かんがいによる土壌水分の適切な調整が可能となっている。

これらにより、大豆の収量は県平均を大きく上回る230kg/10aとなり、品質も向上している。



② 省力化

10a区画から1ha区画への大区画・汎用化と農道の整備により、大型機械の導入と農地の集約化が進められたこと、また、国営事業による用水の安定供給と、FOEASの導入により水管理作業が軽減されたことにより、水稲作全体で約1割の省力化が実現している。



地下かんがいによる大豆栽培

③ 規模拡大・土地利用調整

法人化後は、10a区画から1ha区画に大区画・汎用化した水田を利用権設定により集積・集約化し、法人化当初の約99haから現在107haに経営規模の拡大を実現している。



農産物の直売

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：大崎市、松島町、加美町、色麻町、涌谷町、美里町、東松島町
受益面積：9,736ha
事業期間：平成3年度～平成22年度
事業目的：用水改良
主要工事：ダム1箇所、頭首工4箇所、用水路6路線

位置図（宮城県）



鳴瀬川地区

<問い合わせ先>

東北農政局
農村振興部農地整備課
電話：022-263-1111
(内線4460)

(令和元年度調査時点)